

# 経営比較分析表（令和4年度決算）

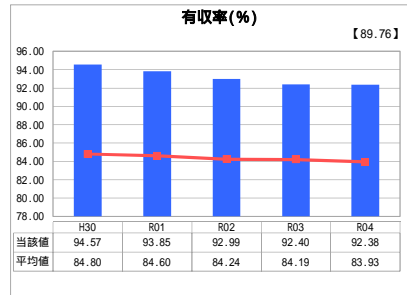
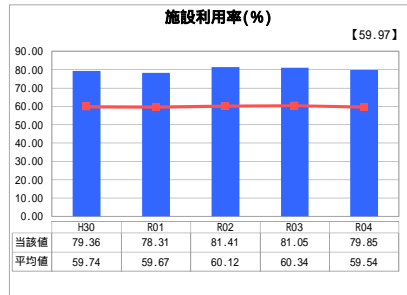
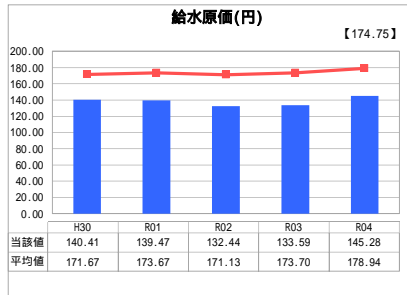
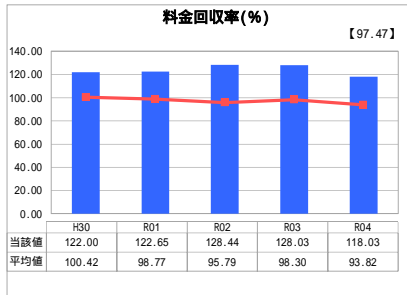
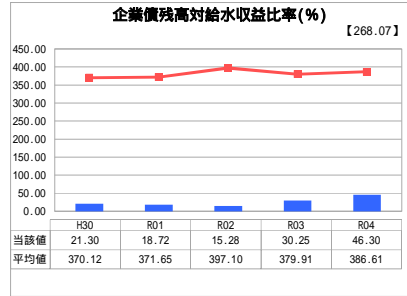
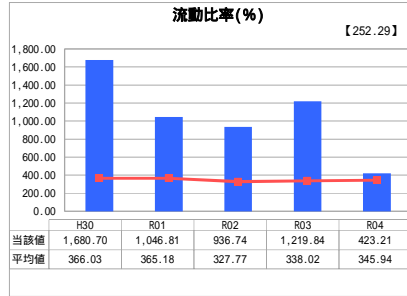
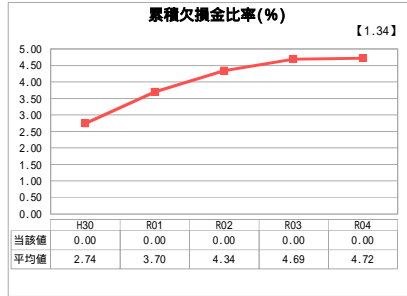
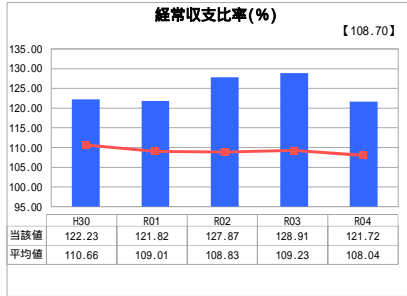
兵庫県 小野市

業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法適用	水道事業	末端給水事業	A5	非設置
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	1か月20m <sup>3</sup> 当たり家庭料金(円)	
-	88.14	100.13	2,750	

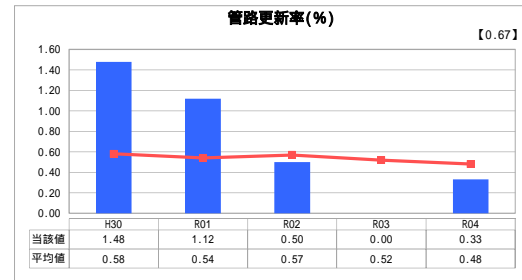
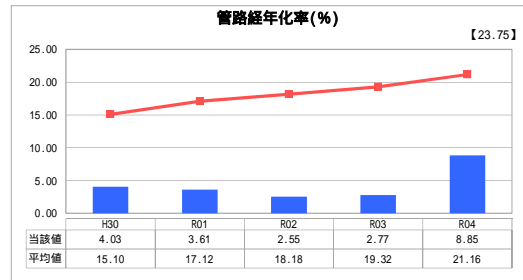
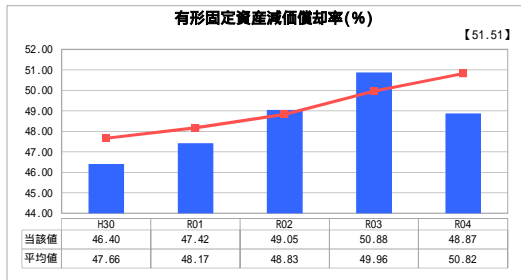
人口(人)	面積(km <sup>2</sup> )	人口密度(人/km <sup>2</sup> )
47,451	92.94	510.56
現在給水人口(人)	給水区域面積(km <sup>2</sup> )	給水人口密度(人/km <sup>2</sup> )
47,415	82.92	571.82

グラフ凡例
■ 当該団体値(当該値)
- 類似団体平均値(平均値)
【】 令和4年度全国平均

## 1. 経営の健全性・効率性



## 2. 老朽化の状況



## 分析欄

### 1. 経営の健全性・効率性について

経常収支比率  
「経常収支比率」は100%を上回っており、全国平均及び類似団体と比較しても数値は高く、健全な経営状態にある。  
累積欠損金比率  
累積欠損金のない状況が続いている。  
流動比率  
「流動比率」は令和4年度末での未払金が増加したため減少したが、100%を大きく上回り、1年以内の支払に對し十分な現金等を有している。  
企業債残高対給水収益比率  
令和3年度以降、起債を行っているため増加しているが、過去に繰上げ償還を実施したことにより、企業債残高は全国平均及び類似団体と比較しても十分に少ない状況となっている。  
料金回収率、給水原価  
「料金回収率」は全国平均及び類似団体平均値を上回り、「給水原価」はそれらを下回っているが、今後の施設更新費用の財源確保のため、令和6年4月に料金の増額改定を行う予定である。  
施設利用率  
全国平均及び類似団体と比較して数値は高く、効率的な運転ができています。  
有収率  
継続して行っている漏水調査等により、有収率は類似団体と比較して高い水準が続いている。平成30年度以降有収率の低下がみられるため、新技術を活用するなど漏水対策を強化し、老朽管の更新工事を計画的に進めていく必要がある。

### 2. 老朽化の状況について

有形固定資産減価償却率  
新たな浄水場が完成し、有形固定資産の帳簿原価が増加したことで数値は改善し、全国平均及び類似団体平均を下回っている。  
管路経年化率  
全国平均及び類似団体と比較しても数値は低く、計画的な管路の更新を行っている。  
管路更新率  
令和3年度の値が0.0%となっているが、正しくは0.14%である。令和3年度及び令和4年度は、浄水場整備を行なったことから、管路更新が抑制され、管路更新率は類似団体平均を下回っているが、優先順位に基づいた管路更新を行っている。引き続き計画的な更新を進めていく。

## 全体総括

経営の健全性・効率性に関して、本市の事業経営の状況は、類似団体と比較して良好で、施設、管路の更新も計画的に行われている。  
しかしながら一部企業の給水量の増加はあるものの、人口減少に伴う給水収益の減少する一方、今後の管路や施設の更新等による経費の増加が見込まれ、厳しい財政運営が予測される。  
安全で安心な水を常に安定して届けることのできる事業運営を行うため、経営戦略及び投資・財源計画に基づいた計画的な施設の更新、更なる経費の削減に取り組んでいく。  
また、アセットマネジメントに基づく施設規模の見直しや延命化などを行うとともに、運営基盤の強化を図り、安定した水道事業の運営に取り組んでいく。